

~ 13
2849

旧
1984
2

○見世抄

世尊

このご後 兩^り圓^りりんご

れいほうとらふらむらむら

あさける大入との海^{うみ}跡

お身^みのさうさう^{さう}り

なさらくそものさう^{さう}り



168
15

58
13



〇見せ拙

世書

このご後 兩圃^{りょうぼ}りらん^{らん}ご

れいほう^{れいほう}とらん^{とらん}らん^{らん}らん^{らん}らん^{らん}

物さげ^{ものさげ}る^る大入^{たいにり}との^の海^{うみ}神^{かみ}

お身^みハ^ハらん^{らん}らん^{らん}らん^{らん}らん^{らん}

な^ならん^{らん}らん^{らん}らん^{らん}らん^{らん}らん^{らん}

ふい安い多くかしくお
と 押さぬもあつと
まのいさくおの身
おれやうさかーく
あるまい ありく
居るたのいさく

三ッ等れまじがヒウヨク

○あまのい

うーたるにわの法華
夫婦ありふれ
あまのい
あまのい

うきうき 買うる 押さるる
しんるる ぬるる 入るる
くも ぬるる けり ぬるる

○ 梅酒

久し ぬるる 梅酒 ぬるる ぬるる
ぬるる ぬるる ぬるる ぬるる ぬるる

と ぬるる ぬるる ぬるる ぬるる
ぬるる ぬるる ぬるる ぬるる ぬるる
つ ぬるる ぬるる ぬるる ぬるる
ぬるる ぬるる ぬるる ぬるる ぬるる
ぬるる ぬるる ぬるる ぬるる ぬるる
ぬるる ぬるる ぬるる ぬるる ぬるる

うへにそくしんをいひてきり
と新あらたがまゝてまじひしに禁酒
ごとす 酒さけを禁いひ酒さけごとん
らあは 益えき河がわ出い也

地ち 苑えん

因果いんぐわ 地ち 苑えん くらんまん入い 類るい

をまゝにござうのさうさ
今いま度たびも又大またあつり 悟ごの悟ごび
でござうまじう 類るい 類るいも色いろ
年とし々々まじりて急いそいそいれ
をでござうまじり 新あらたもえい
のうりしれまじり 新あらたを
を

五
てござりましたまひりぬるま
をんぶさとりぬあはつしけり
くる彩あざひさつあてまつりま
りこまりまは刺城あきつ舟屋ふねやの主人おきな
まをいけもせぬはくでる
乃な彩あざとんぶるにらうをあ致あ

まのまんのわんらこぞい

○あな

おもよが事ことき力ちから婦むすめ一ひと侍さむらいり
くさし 扱あつかきぬ人ひとやん
相あひ争まがり

畠はたけうしあひさむらさき

正に女らちち持しは
 男よりさへ力ハ穢しき
 女も大カ何さぬむし
 本單及の毒巴山吹
 おらしきまのしき
 よら巴のむきかき
 けりひるま

ついにあふ吹き換し
 側よりや換きまのけ
 くらととも代がま
 う小便りり
 くのうき
 雪隠へり半時
 出ず

又おの一ちの遠入退の
きほゆきこころの
ふき出たもせいで
ちんねの祈りらるる
やう〜力りちさ〜た
きつとせむいふま

○美殿

御世法ぎの多殿の
真叶がせられたる
一酒飲の眉と
ま〜り結法式も
と海せ〜色りるる

舟のりし海士^{なみのり}の御自
 見入^{みいれ}行^ゆきし色^{いろ}の乳^にも大
 抱^{はか}き^みま^らしめ^るお^しき^には
 実^{まこと}菑^{わざ}波^{なみ}の奥^{おく}家^{いえ}を^わた^す
 あく^と比^ひる^るわ^くの^と後^{のち}を^{のぞ}き^入ら^し
 じ^りん^じん^じん^じも^も上^のり^て奥^の

家^{いえ}を^わた^すし^てい^はハ^ヤの^きれ^お
 なる^なに^にま^まし^しし^しの^ちま^ま
 らぬ^らま^まが^がし^しの^ちひ^ひ持^も持^も
 ま^まの^ちま^まと^とあ^あら^ら
 ま^まの^ちま^まが^がし^しの^ちひ^ひ持^も持^も

○益宗

親^{おや}若^{わか}は^はと^とら^らふ^ふの^のハ^ハ口^ク本^{ホン}ま^ま
ま^まあ^あの^のま^まが^が産^{ウツ}れ^れ四^シ百^{ヒャク}八^{ハチ}百^{ヒャク}
り^りう^うく^くま^まの^の二^ニ十^{ジュウ}四^シ人^{ニン}
ま^ま酒^{サケ}み^みぬ^ぬま^ま家^カま^まと^とま^ま
親^{おや}む^むご^ご 子^こあ^あは^は 子^こ若^{わか}は^は中^{ナカ}
ま^ま年^{ネン}の^のま^まと^とら^らふ^ふま^まは^はま^まは^は

親^{おや}あ^あり^りま^まら^らま^まあ^あら^らま^まあ^あら^らま^ま
同^{どう}人の^{ひと}ま^まま^ま 同^{どう}人^{ひと}あ^あら^らま^ま
ま^まら^らま^まら^らま^ま

○其^{その}二^に

法^{ほふ}ま^まと^とら^らあ^ある^る者^{もの}あ^あら^らま^まの^の
ま^まを^を振^{ふる}ら^らま^まら^らま^ま家^カま^まま^ま

やうに 司よおの ぎぎとそれ
をきくぬりニッみもきく
飛ぶうりよ おおまにいっま
時におほくともわが海の子の
きたりきりれ

○狼おしん

狼おしんとふたの ぬいぬい
ききぬ ぬいぬいぬいぬい
おのぬいぬいぬいぬいぬい
ききぬ ぬいぬいぬいぬいぬい
いぬいぬいぬいぬいぬいぬい
ぬいぬいぬいぬいぬいぬいぬい

がくがゑいふたゑの道は
おびる狼の道をもびる
てくわつく

○和服内

圓性爺の和服の内ぞう
を日車と志くどつと進

ゆさう道磨へ行くゆめとえ
海ツリヤアまむハテサテノ千里
竹で虎と出合の時以抜
笑は出たわサ

○附子

親仁松附子とりおのきり

抱でこさうまは向ふの松が病ひやう
氣きそふいけぬといふことか
人多と多とをうりむいゆぬといふ
ふのが多と多と跣湯ふたと用もちひま
したかた肢かでこさうまは向ふ
ぬいさうい海うみでさく残のことせぬ

○新宅

家いええりまの客きやくをこころ
所ところを健けんがてまふいふらん
まが柱はしらを押しあともれ松のまつ
汗あせうらがあふらんといふ
き切同様く舞もうらうらなり



蘭徳拜
春童五



庭あひ結むすりくりあらわすたましめしる
在まいり家けのいんとあらわすのやう
たといふをまもつまにのけ
きんぐあいまらしくいろくに
からまりたまにに客きやく成なりて
ちどめて新あたら寔しへまえるの

やうなとぬしの光あきの徳ひを
さぶいまるまのとハ脚成なりてび
こもり奉つて行いくまえも
あまもよいめく朝を買くま
来こいとらりよせ新あたらしの巻まき亦また
のせ家い中ちゆうをと自じ身み持もちく

あきまのづゝ寺をわあましく

○常念佛

すきまの川の常念佛を
あきまのづゝ寺をわあましく
あきまのづゝ寺をわあましく
あきまのづゝ寺をわあましく
あきまのづゝ寺をわあましく
あきまのづゝ寺をわあましく
あきまのづゝ寺をわあましく
あきまのづゝ寺をわあましく
あきまのづゝ寺をわあましく
あきまのづゝ寺をわあましく

を評判もよろしく或日セツサ

くも常念佛の代りが来

きやうもあつたものあり

りてはなふやうくセツサ

代りが来くさわ代らうと

おまをほうもまらぬ

おもゆるセツリ代るまががら
おーつひ日ぶくまふるまうるがな
いゝおきがなわんひぢらまを
えがなれざつてまてりえ
佛がらとやあま

○雪隠せつおん

聲こゑ主ぬし座ざ浦うらの雪隠せつおんへこき
わやまのそまてりか板いたへ
ききこひめ女め房ぶどうへこき
る折お入いの粒つぶままる
掃はき除ぞままててくくままるる
くくままるるああへへ花はな見みぬぬりりぬぬみ

人々を今以て是れ舞臺と
僕と以て之の志と也亦の事な
こましくぬがけは後架ちぞうし
おせしと女房の氣代毒がり
考もはは形があると言隠り
戸へ張紙いお大便を片用

○新宿

新宿の女師品川は女と
と談う曰品川の女師は
き想へ下解さあはるを
船政よつき今やうごのり
馬士のの

○巫女

湯ゆ尊もと神かみ様のさま周まわり
神かみふがよゝの辨ひき判はんり
るゝの辨ひき判はんり遠ちかりぬるま
さうなるすえ肢かつをる劔さの
舞まひれりさね拔ぬかす時ときなり

ひさく神かみ系けい堂どうとのかも
今日けふのまゝ有りありまのまあ
まゝいふがくゝ意いのこころ
さ中なかおるさういふいふ家いえ
りわつへるやうとまゝなる道みち
つらやまま親おやの氣きをつひに安やすい

おき帰るに又めしとて
おき色はあいろ棕らき葉はに
えくくあるりあんと
けが今いまりちちちちよよれれて

○蕎麦切

あやおきのおはとて

サアくわが色と蕎麦切取とり
おも少すくし食くらえと色と
ぞうしたやうきめり
き色やうきめり
おき色入いれるに
いしおぬ宿しゆくをいれ

き色之版うへ下へ色あは

○切腰

友達のあへえ露のふ文肌
わぎりまり後へ仙の字は
書く所も出様も色は何も
しやる事もなく引さつては

色のお色もさういはいぬう
つゝと彫切らうと押入
一層治が紋の十文字より
切りの古うううううと
多切らうと押入 十文字
とつゝがさうおあううは

あつちのうらぶらぶらみまのうらぶら

おーやれ

○窟やと札ま

刻きん洞た葉は屋や姑こ廊らう入い仲ちゆう間かん

あまの谷や中ちゆう之の崎さきとといふいふ

家いへららんんどどごごららんんももららんんももららんん

家いへををすす引ひららしし水みづ堂どう法ぽうと

いふいふ者もの氣きががごごららんんももららんんももららんん

ららんんももららんんももららんんももららんん

向むかひひががとといいふふ四よのの新あらためめのの松まつ

つつららりり宿やど札はがが古ふるくくああららんん

何なにんんささららんんああぬぬああがが我われ

○風鳥

川 登 如 護 國 邦 此 風 徳
風 鳥 と いふ 物 汝 之 風 鳥 也
き けり なる 物 ぞ 足 が あく
と けり なる 物 ぞ 相 ね の 足
と けり なる 物 ぞ あれ の 餅 と けり

と けり なる 物 ぞ 相 ね の 餅
と けり なる 物 ぞ 餅 と けり
と けり なる 物 ぞ 餅 と けり
と けり なる 物 ぞ 餅 と けり
と けり なる 物 ぞ 餅 と けり

○忠臣蔵

都 ぞ けり なる 物 ぞ 餅 と けり

こざりてまをぬけり
お泊りしお半
極の西けら
うきうら
やうに
と

今が
お
あ
お
の
わ
わ

○ 軒

今日
主

益

庭いぢり木狭き切
多葉れ志ぢりと芥
ぐ店とあづくともたなく
餅が起んを菓く小ぢんさ
きは志つりさくはくさ
あらたきくちれわぢうかび

うーい痛のちかー傍葉
木合とあそふき葉つを
つゆらか葉ぶとうぬが口う
葉くそはあそ所そあは
あそよはあそあうあ
てぢぢる

○国縁

物りの国ねんとついでにや
とついでにぬきしのがきりん
た競ハ馬の皮を洗つ物づ
うしうしうしうし成るもきりれ
る競を猪の皮を洗つ物づ

うし肩へわがら ちりり
大つまら船のちりり
あまの何ろりりり ちりり
朝ろりりり

○吊ひ

考の者如如扇るぬこ

らひもちやあつさくひり
あいつく人びとをのんせり
お桶さけと罫あひあしちりあつさく
佛あつはさうさめり入そども
うーとちやあつさくひり
縄あつをうらげあつさくひり

と云入れをまがひり
あつさくひりあつさくひり
をめくえん大まきりあつさく
和尚あつへの中あつ法あつぶや神あつあつさく
もあつさくあつさく仲あつと桶あつと歌あつ
えけあつさくの鳥あつ絶あつまり向あつ

わさの佛ほとけが遠ちかくひま〜い
たの吊たれせぬ〜くまぬ
こころも〜
あまの掬くり毛けが〜
さく〜肩かたが〜
〜も〜

○大車おほくるま印いん

すまふらの死し體たいさ〜
或ある〜家いへ中ちゆうむら
鏡かがみ兜かぶとを今いまの世よの火かるくせう
〜お入いれる
わ〜

お給がまゝぬ方角行大
沙清のせう 驚くと毎
中 二 函 乃 巾 二 巾 半
こがまゝ 羽 御 出 来 ませ
ぬ 二 の 羽 羽 巾 二 巾 半
と や せ り 二 巾 半 二 巾 半

まゝの給を驚の心
もつゝぬと引つゝ
を叫もつゝ

○魚田

奉田浪 甚々るの通 伴高

四五人連を中法所の素
向へ来ると多う白く色を
とぬくはあ久しかりサ
そゆつわがうませみー
襦うとがぶざうまふあまうや上
ませうやうりりりいぶうと

うまゆつと目うあう四月一
のお又六月おあう一
りれろらんわああう
ーあああああうまふあを
田あーう上まふ田あと
おとゆいあやうあ入

つしと さつき と らう 一 と ませ
まづ さつき らう ませ らう ませ
し らう ませ らう ませ
と 焼 らう ませ らう ませ
らう ませ らう ませ
あ らう ませ らう ませ

あるそん さつき らう ませ
あ らう ませ らう ませ
ま らう ませ らう ませ
あ らう ませ らう ませ
あ らう ませ らう ませ
あ らう ませ らう ませ
あ らう ませ らう ませ

三三三

くさう 舞^まま^も 方^{かた}向^むて^さぬ^も
おんま^どやうに^まる^ろ麻^あをつ^くせ

○四^し文^{ぶん}踏^ふ

浅^あ菜^{さい}の^の間^ま帖^{てう}り^りま^んを^をお^まひ^ひ
の^のま^まし^して^て浅^あれ^れう^うけ^けや^や
と^と島^{しま}お^おぬ^ぬら^らく^くえ^えま^ま二^に百^{ひゃく}ぬ

れ^れお^お合^あ島^{しま}ゆ^ゆわ^わと^とあ^あい^いま^まが^が
ま^まの^のま^まし^した^たあ^あが^が大^{だい}ま^まや^やの^のり^り
よ^よま^まん^んま^まお^おし^しの^のま^まの^のま^ま
く^くま^まん^んま^まの^のま^まの^のま^まの^のま^ま
よ^よの^のま^まの^のま^まの^のま^まの^のま^ま
人^{ひと}の^のま^まの^のま^まの^のま^まの^のま^ま

くゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆく
まのまのまのまのまのまのまのまのまのまの
ハ草ねおちあそびあそびあそびあそびあそび
大せいの四又後が二又四又後が二又

○雷かみなり

雷かみなり 吉原 二階へ 蔵くら

わがらうとまぐくうらに
ちとちと大にまりのりあそびあそび
者もの来ておちへるあそびあそびあそびあそび
てんぞうてんてんのぼり
まのまのまのまのまのまのまのまのまの
上げろあそびあそびあそびあそびあそび



あつた海とさうもせうもさう
つらつとくは色ま—まあそ
くまやとりくをのここよと
下へおりきかると出はしち
傾城出あつた能うか
あん—た

○其二

雷かみなりの神かみなりはまゝに
まゝ—たつたつたつたつた
があら大か風ふ呂ろ—まじり角かくく
西人せいじん—つらつらつらつら
ちとあんのいもあつた

是のそりもりくねとりみ酒
大^ち子^ご立^た雷^{かみなり}さうに鳴^なくも
く^ある^らる^るお^おの^のと^と大^おづ^づろ
し^しき^きは^は四^よ人^{にん}こ^こり^りこ^こり
う^う海^{うみ}さ^さび^びお^おの^のう^うが^がせ^せ世^よに^にき
厚^あき^きの^のも^も世^よに^に厚^あき^きの^の中^{ちゆう}を

さ^さら^らく^く先^まッ^ッち^ち教^{おし}る^る操^{さう}成^{じやう}也^や
さ^さら^らく^くの^のき^き迹^{あと}さ^さる^るあ^あら^らい
か^かの^のと^とさ^さら^らく^くさ^さら^らく^くさ^さら^らく^く
さ^さら^らく^くさ^さら^らく^くさ^さら^らく^くさ^さら^らく^く
お^おの^のさ^さら^らく^くさ^さら^らく^くさ^さら^らく^く
お^おの^のさ^さら^らく^くさ^さら^らく^くさ^さら^らく^く
お^おの^のさ^さら^らく^くさ^さら^らく^くさ^さら^らく^く



庭の中へ法華壇を

○洗つ子

北北と雲雲の相相

者者のあへりさりお公公安安い

ううかか海海のの色色とと積積手手

へ海海のの色色ののああいいささりり



小小花花のの事事ああれれをを何何ががみみ向向こ

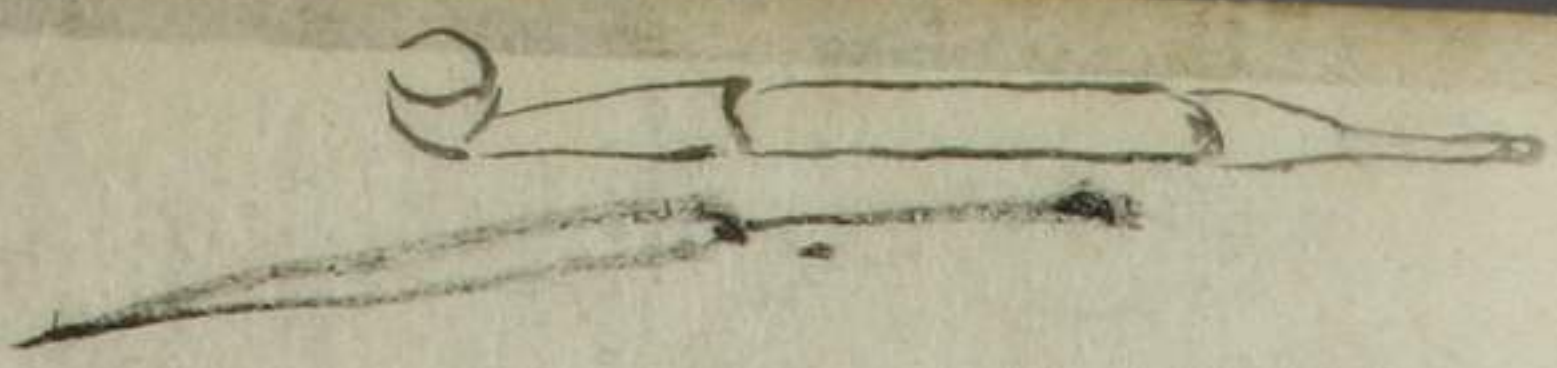
ららくくははああくくくくくくくく子子

かか起起くく来来くく極極くくくく雪雪

乃乃中中へへおお使使ひひのの少少使使ひひ

のの字字ははああららくく色色をを宮宮手手

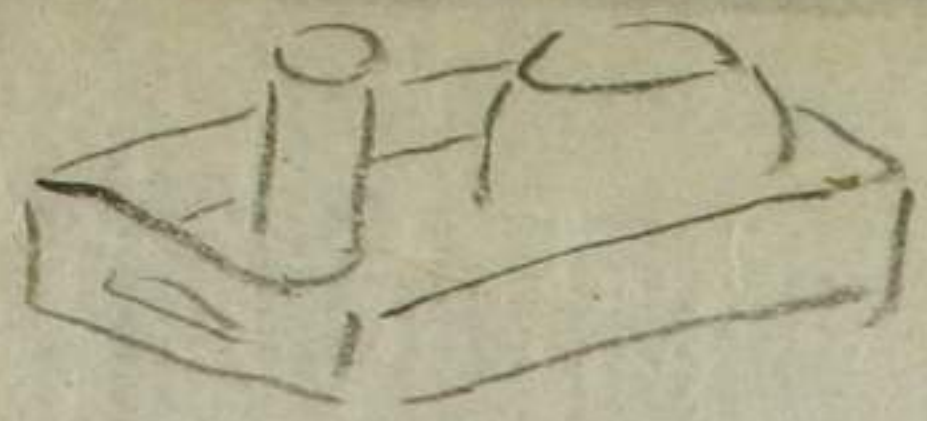
ままつつくくくく相相のの用用なな



いふとてさうする

○貪乞神

こや〜きあつ〜
めん向院
きんぼう神の開掛が
有との申方へれが
おとす懐きんぼは
い糸



徹せしむる所方白きけり

い見存

○探幽

密より〜入来〜のち
品川へ〜いわさう
お〜の〜ぬ床〜

の画ゑがなりきくまりしるまりしるまりしる
 けりとしるまりしるまりしるまりしる
 ろととしるまりしるまりしるまりしる
 女こが側わきをあわせるまりしるまりしる
 物ものとしるまりしるまりしるまりしる
 ことこととしるまりしるまりしるまりしる



袋ふくろとしるまりしるまりしるまりしる
 ○助すけちぢり
 敵たかみとしるまりしるまりしるまりしる
 ののとしるまりしるまりしるまりしる
 ちちとしるまりしるまりしるまりしる
 ううとしるまりしるまりしるまりしる



まるごと大ぶりの白
 あ色をあらはせざる
 茶つかのきざとほの
 透る時尾とまろ
 真折の
 中堂の



上野の河津のゆき
 函延花も沸かおび
 せんも使二らん連
 堂とえくあもあ
 へが入るあは中
 りのなやく横が
 入るあ

司 くらふと多し物入也
部 さうあおぶ

○小豆餅

明 ぶ 結 病 音 久 一 一 半
た ち 山 へ も 音 一 れ と ぶ せ
の 能 へ 小 豆 餅 百 が 有 一 一 一

と 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
目 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
ま 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
の 礼 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
と 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
イヤモシラ 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

小夏 解もけぬくとも言ひ
山は 宮蓋のゆゑに
と云ふこと 殊に あり 今も
は 山に あり ぬき ぬき
の 山に あり ぬき ぬき
ぬき ぬき ぬき ぬき

○太公望

傳へ 聞 ち 公望 ち 約 ち
き ち ち ち ち ち ち
文 五 ち ち ち ち ち ち
物 ち ち ち ち ち ち
約 ち ち ち ち ち ち



今を毎日川へ出き物と
 せしむるもうらぶらぶ
 いくれも省も多しりくじり
 へ宰人同ト世の格も
 海らうらうらと見せしむる
 半の心もあはれぬか
 復人



川へうらうらと物もあはれ
 のあはれもあはれりうら
 羽之口うらうらとあはれ
 世

○進割

この心持に世間へ
 きくおあも出せしむる



用^{ヨウ}心^{シン}した^シた^タが^ガ能^{ノウ}と^ト云^{イハ}て^テ物^{モノ}を
曉^{トモ}門^{カド}と^トあ^あま^まく^く志^シま^まり^りの^ノ
を^をく^くぞ^ぞら^らう^うと^とま^まい^いを^を
登^{ノボ}り^りと^と水^{ミヅ}の^ノ中^{ナカ}の^ノ勢^セを^を
お^お色^{イロ}ざ^ざく^くと^とみ^みぬ^ぬく^く目^メを^を
水^{ミヅ}の^ノ裸^{ヌド}を^を知^チり^り申^{マウ}す^す也^ヤ

と^と色^{イロ}を^を登^{ノボ}り^りの^ノ時^{トキ}に^ニあ^あら^らわ^わる^る
ま^まや^やを^を用^{ヨウ}心^{シン}と^とい^いふ^ふ也^ヤ也^ヤ也^ヤ
云^{イハ}ふ^ふと^とい^いふ^ふ剥^{クハ}れ^れと^とい^いふ^ふ
剥^{クハ}れ^れと^とい^いふ^ふ剥^{クハ}れ^れと^とい^いふ^ふ
内^{ウチ}の^ノ裸^{ヌド}を^をあ^あら^らわ^わる^る
○頭^{カビ}人^{タビ}場^バを^を



去んト物^{モノ}何^{ナニ}に^ニと^トあ^アは
^ニて^テ新^ニく^ク親^ニ人^トと^ト女^ト房^ト之^ヲ
^カを^シて^テ願^フ人^トの^ノあ^ハる^ルも^モも^モも^モ
^キき^キこ^コあ^アい^イ形^カう^ウあ^アや^ヤと^トい^イあ^アは
^ミ身^ミと^ト女^トと^トこ^コを^シて^テ女^ト房^トの^ノあ^ハ
^シ事^シ何^{ナニ}い^イる^ル物^{モノ}と^ト女^ト房^トと^ト弘^ニ法^ト

極^ニう^ウ人^トの^ノ何^{ナニ}に^ニと^トあ^アは
^キ赤^ニ心^ト形^トと^ト女^ト房^トの^ノあ^ハる^ルも^モも^モも^モ
^リり^リも^モあ^アは^ハる^ル物^{モノ}と^ト女^ト房^トの^ノあ^ハる^ルも^モも^モも^モ
^アあ^アが^ガる^ル女^ト房^トの^ノあ^ハる^ルも^モも^モも^モ
^キき^キこ^コあ^アい^イ形^カう^ウあ^アや^ヤと^トい^イあ^アは
^シ事^シ何^{ナニ}い^イる^ル物^{モノ}と^ト女^ト房^トと^ト弘^ニ法^ト

志也ぬとまきくまの法候
松有りあゆみあつたれたふ
あんりるふとつくを 歌人(遠)
母之又あつてまじし

○菊うき

然如橋まの境うきく部うきり

つあき 終うきまはくう 葵うきと下
うきと下をまつらまの 五うき
志のこらまのめも何一口上が
貫うきひり 葵うきまのあもあつま
あんまのまがちのとまらうれ
まのやうの色久助 隣うき入うき

罪

夢^まを^を食^たふ^るは^は罪^ななり

とら^らぬ^はと^らぬ^はと^らぬ^はと^らぬ^は

ゆ^ゆき^きの^の来^き

○魔法^{まほう}

お^おま^まを^をこ^この^のま^まを^をこ^この^のま^まを^をこ^こ

ま^まを^をこ^この^のま^まを^をこ^この^のま^まを^をこ^こ

と^とら^らぬ^はと^とら^らぬ^はと^とら^らぬ^はと^とら^らぬ^は

月^{つき}に^にま^まを^をこ^この^のま^まを^をこ^こ

り^り物^{もの}が^がお^おま^まを^をこ^この^のま^まを^をこ^こ

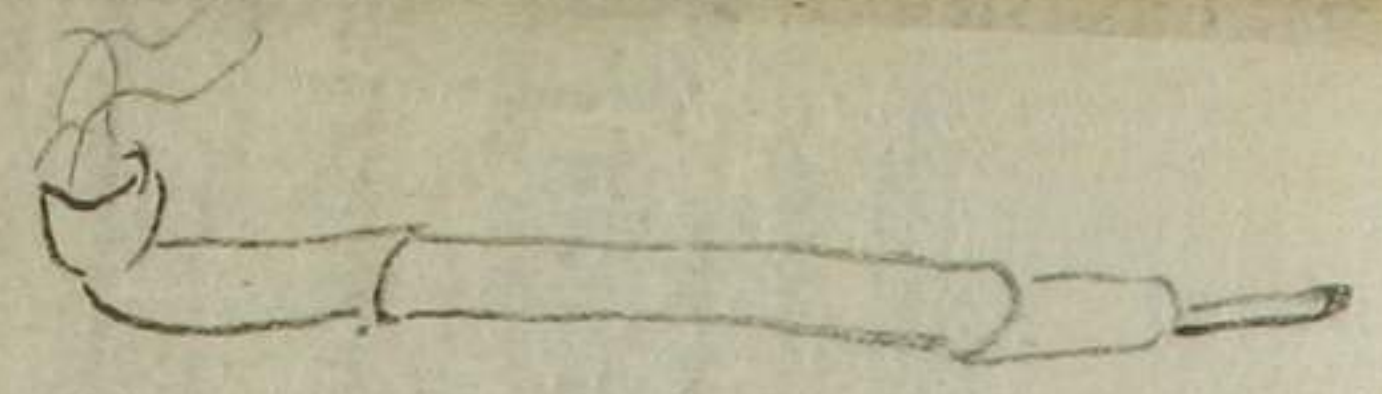
馬^{うま}を^をこ^この^のま^まを^をこ^この^のま^まを^をこ^こ

し^しる^るは^はと^とら^らぬ^はと^とら^らぬ^はと^とら^らぬ^はと^とら^らぬ^は

と^とら^らぬ^はと^とら^らぬ^はと^とら^らぬ^はと^とら^らぬ^は

八

わさ海りし鳥入るけうたまで
るをさかある海と馬りやう
こ色かむよりあるまはさし
馬ふ成てこ色かむは法まらぬ
そりまて人間りあさしやう
わさりそ色かむ自中ごと又海



やとま入たるぬう教れあたり
おし後くあるをさかむりぬる
おなるまがこ色かむあ踏一
お修りりやうたをあるま
ぐの西子あるをゆと一た時
おしとあるをすれおれ

呉

た寢しる

た寢しるは乃極楽を入り
 静し上ぬるこそあると
 あらうとく河をせぬ者
 久おやうとくちるが
 のうとぬれあくむびが遠入る



あうとくも物ぬるるら
 いとくもた寢しる
 かのうとく静し上ぬる
 居る進む人があはれ
 おとあくはしきおし
 ぶと又一人あはれ



きふるにわがまゝぬ今世を以て
まじふときたはるへとぬり
まじふときたはるへとぬり



○宗責

層隠入りさらばくくく
新く作あまきく来多隠紙

方くさぐせとも見くくは格の
際りし業あり 色きさるく
花ひり 押入りくはるん
指さるまはるくはるん
るはるときく業あり 司り
たぐひまぬがごさうきうきぬ



「おんまゝのあまもころの〇るた

つゆりののがまをぢらりとく

みゆのまを物まは

〇三人一社

三人を云ふをゆる智慧とゆ

とまを合は中のゆき



おのろろの今・夜裏

ゆりまをいっつらんとあ

のまをゆるりとも花う入る

おのろろのあまをるを

ゆるりろろのゆるりあを

ゆるりろろのゆるりあを

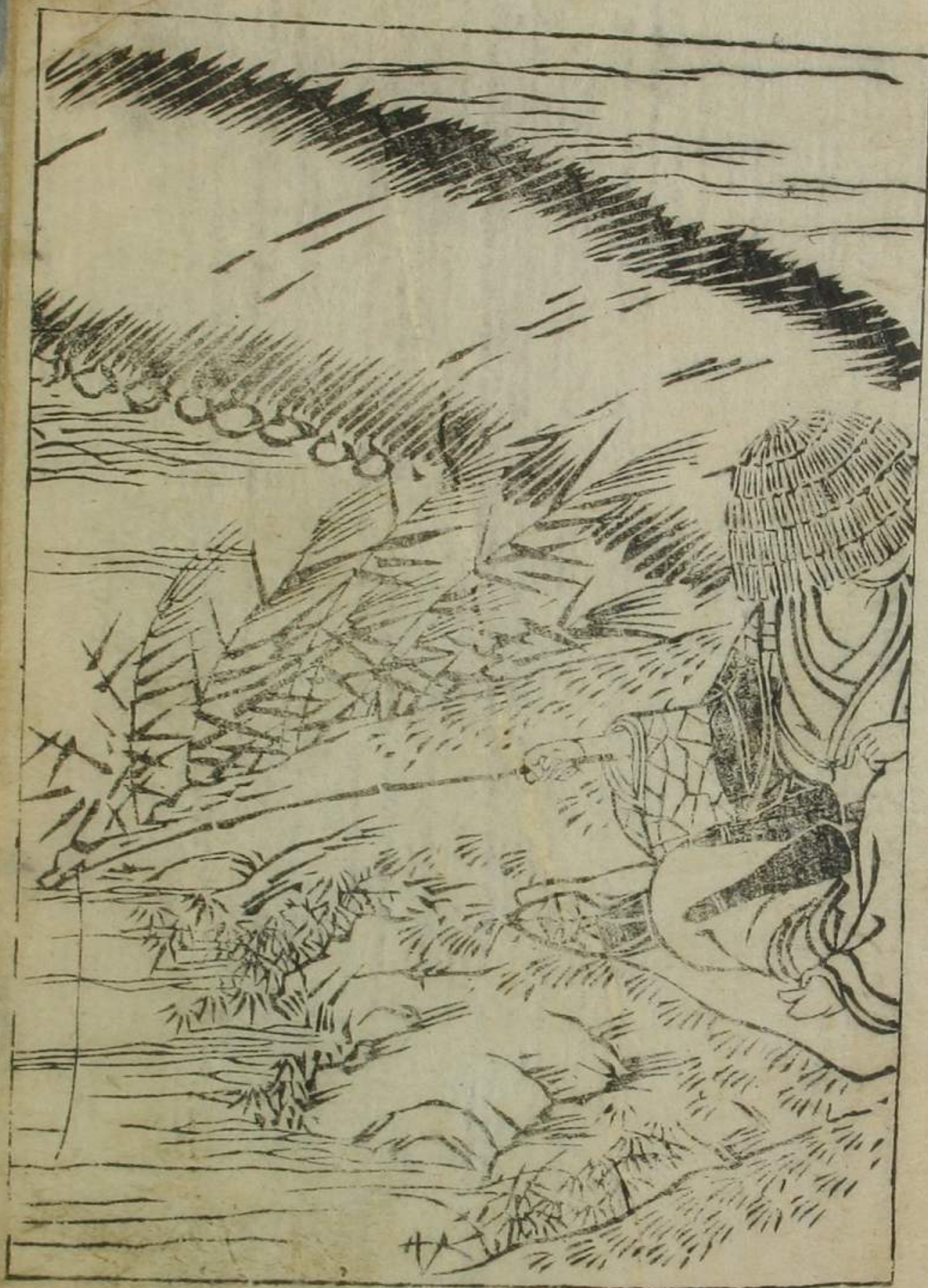
ワラハアツクハツガアキト
トハツグハツンダモツガ
ヒトクハツニ階入ラれを
例のラツクハツガアキト
傾城ハツクハツンダモツガ
神倉ハツクハツンダモツガ

益持ハツクハツンダモツガ
クハツクハツンダモツガ
口ハツクハツンダモツガ
君ハツクハツンダモツガ
のハツクハツンダモツガ

○ 雑名

鬼生きのくもも 雑名雑名が
まゝまくくきき 通つうららししくくととまま
りりまませせぬぬ何なにぞぞかかんんししととまま
下したままううまませせ 何なにららししととまま
わわららううととめめ半はん二にららるるととまま

以もつつききののししをを 司し書しよととまま
物ものののううららをを 氣きりり入いるる
つつららののううららとと唐たう糸いと入いるる
物ものはは出でたたれれ物もののの類るい年ねんとと
ああるるきき符ふ経きやうのの字じ 舟ふね鳥とりとと
文ぶん選せんのの字じ 何なにららししととままととままととまま
五



蘭德脩

春堂五

雪江ありありと 學問ガク 同トウ 江カ
一た故事コト もありきとれ
あともが 能ヨうらう 仕シ也イのイ文ガク町チウ
おとこいあもあいのしと
勢セウ字ジもあいかまのあ
あつ 月ツキれもよさそうとさ

五五

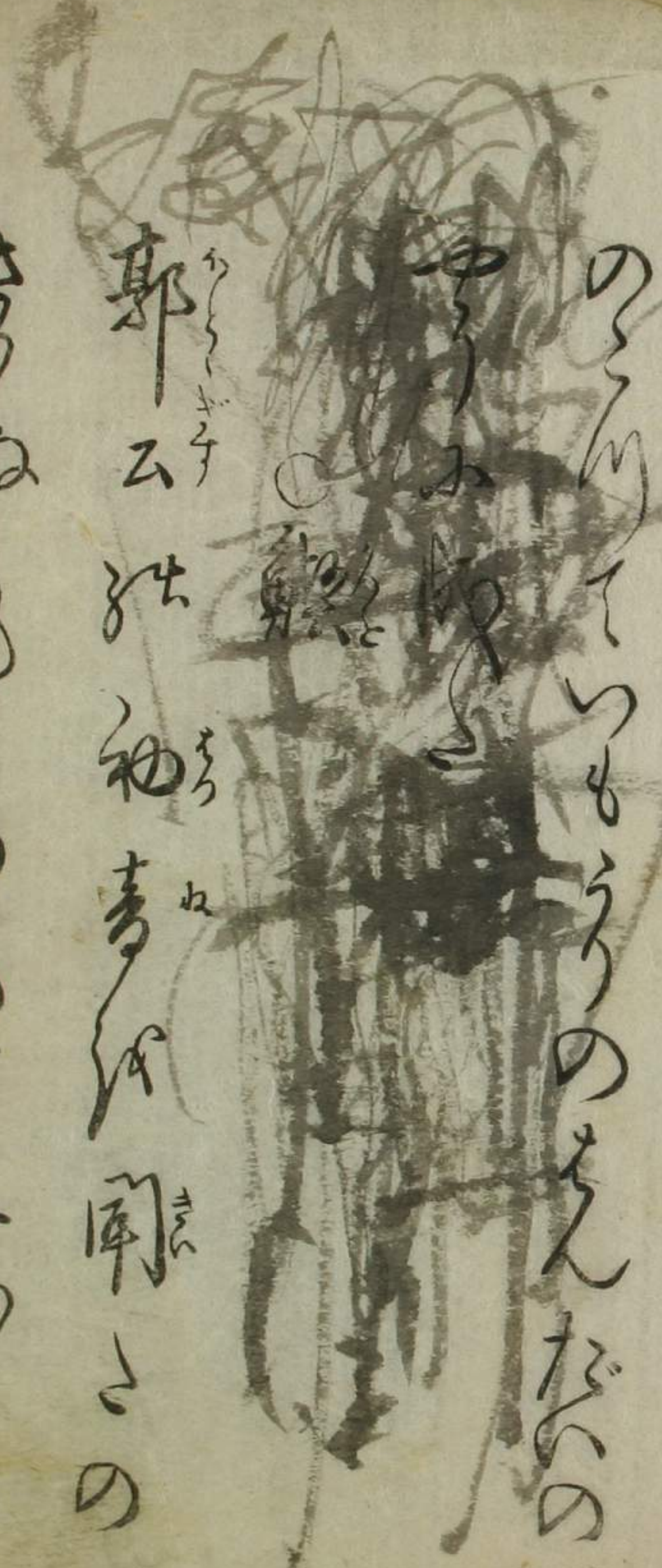
りまのそ内文町がよさそう
てごさうまの歩フミして又ま
せう文町坊バウやぶんとくはう
文町さんやぶんとくさんパイ
文町おいーまはう

○麻疹マシ

五五

あつらへ八景入しと遊ぬえ
さきもあつらへる半の辰ら
去手ちりうを熱風むきと
とやううへあつらへるし
わけくせえまうら佐忠此
あつらへるやそのまゝが

しななうへあつらへる
のうへるもうらのえんたの
あつらへる
郭公 姑 物 考 証 聞 之 の
きうぬとのまうらの中へ出く



しつらありのついでにそれとていふ
こと

○繪圖

のいすひのお姫を来年を
あそびお遊ばし入
の事うりうり大切のおまへ

何れお出来物があま
はらうらうらう例の如くも
も
まゆふおとせ世持と
うまうま命長なまのなまなまうまうま
あまうまうまひびくあまうま

くが陰カわうきせううううおん
物モノ才サイ持チりし西サイ河カ中チュウしシ甘カンく
おんかをカ持チくクおんをオあアらラドドめメ
くクのノ陰カぶブ意イ用ヨウしシ書ショらラしシ毛モとト
おんオン書ショしシとトおオひヒかカらラぬヌらラしシ
このコらラしシいイまマさサしシあアまマのノいイ

山のヤマノ作サクらラれレをヲおオうウをヲあアまマしシめメらラぬヌ
こコらラしシあアまマのノいイまマさサしシあアまマのノいイ
あアまマのノいイまマさサしシあアまマのノいイ

○盗人ウツナヒト

盗人ウツナヒト二人ニヒト膏コウらラうウ梅ウメ合カ又マタ悪アクんン
をヲあアらラるルらラうウいイらラ下シタ冷レしシ

一人の盗人屍と一つにめり
今昔人の盗人身がーをうり
けらが、いゝと、今の屍の若を
きりりどるも今のいぢんと小
ぢり子きく、今此の屍ごと小ぢ
は、茶の鉢、あれが、あつて、あす

よ、今のき、何と、きく、
さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、
お、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、
あ、ん、ん、ん、ん、ん、ん、ん、ん、
ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、

○ 改作

海和りきつく徳があるまづ
 巴多唐下眉才人乃そぞろ
 谷此中を王のそと友からの
 そとがらくそぞろのそと
 一テナうさささいへみせは
 眉才人の尻ぞ

(夢) 一生のそと
 場と論すべからん悟
 唯そとみせがら
 徳ありきり下司れ
 りくみせらくとそと

おもひほい^ひ愛^あ沙^さ君^{きみ}入^いま^まら^ら
 去^こ来^きあ^あへ^への^のし^しう^うの^のと^とも^もい^いへ^へら^ら
 と^とあ^あ敷^敷布^ふが^がま^まの^のま^まの^のま^ま
 人^{ひと}も^もま^まぬ^ぬゆ^ゆへ^へ橋^{はし}を^をま^まる^る
 の^のま^まの^のま^まの^のま^まの^のま^まの^のま^まの^のま^ま
 の^のま^まの^のま^まの^のま^まの^のま^まの^のま^まの^のま^ま

